

よって、飼育年数に差があることが明らかとなった。本当にカメの飼育を希望する人間は、主にペットショップでカメを入手しており、飼育年数も相対的に長くなっている。一方、まつり等では衝動的な入手が発生しやすいと考えられ、これが飼育年数の短くなる原因となっていることが予想される。その為、衝動的な購入を誘発するまつり等でのカメすくいは、何かの形で規制するのが望ましいと考えられた。

#### 謝辞

本研究で用いたアカミミガメはすべて市民によって持ち込まれた。終わりに聞き取り調査に協力いただいた方々に感謝申し上げます。

#### 引用文献

総務省 <http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi> (閲覧 2011/01/16)

環境省 中央環境審議会動物愛護部会第 26 回資料(平成 22 年)

<http://www.env.go.jp/council/14animal/y140-26.html>(閲覧 2011/01/16)

---

## 市民参加型調査「親子 de かめ GET」スタート

谷口真理・亀崎直樹

Project of the fresh water turtles researched by family.

By Mari Taniguchi and Naoki Kamezaki

---

人はそこに当たり前にあると思っっている身近な自然の変化に対して、鈍感であるものです。例えば、私たちにとって当たり前川や池でみかけるカメは、いったいどんな種類で、どれくらいすんでいるのでしょうか。日本の本州、四国、九州にはニホンイシガメ(以下、イシガメ)、クサガメ、スッポン等が生息しているといわれていますが、近年、外来種ミシシッピアカミミガメ(以下、アカミミガメ)が侵入し、在来のカメを脅かしていると言われていいます。当たり前にみかけられていたイシガメが、最近みられなくなった。子ども頃、当たり前にみかけていたイシガメがいつの間にかアカミミガメになっていた。そんな経験はあるのではないのでしょうか？

実際、日本の河川や湖沼はもはや外来種アカミミガメだらけです。しかし、日本全域でどの程度の数のアカミミガメが侵入しているか、イシガメはどこに生き残っているのか、と言う素朴ですが基本的な情報は非常に少ないのです。そこで必要となってくること、そして私たちにできることは身近な自然のモニタリングです。

モニタリングとは、変化を記録にすることです。例えばどこその池に何年何月何日にイシガメがいた、ということを残すだけでも立派なモニタリングです。近所の川でカメを見かけたら、写真をとって記録するだけでも何年もすれば、変化を知るための重要な記録になるのです。しかし、現段階ではその情報を収集し、蓄積する体制は確立されておらず、ま

た、個人や一機関の力でそれを行うには限界があります。

そこで、神戸市立須磨海浜水族園では身近なカメたちの生息状況を調査していただける「親子調査員」を2010年7月より広く市民に募集しました。現在20組の親子が参加しており、約80箇所の河川や湖沼における淡水カメの情報が寄せられています。親子調査員のように、そこに住む住民が身近な自然に目を向けて、調査を行う体制が整えば、広範囲で長期的なモニタリングを行うことができるのではと考えています。どんな断片的な情報でも、それを長期間にわたって集め、解析することで、淡水カメを中心とした日本の陸水の生態系の変化をモニタリングしていきたいと考えています。

---

## 兵庫県加古川市 中の池のスッポンの亀記録(2010年)

杉谷明宏<sup>1</sup>・杉谷慎一郎<sup>1</sup>・谷口真理

<sup>1</sup>スマスイ調査員

Records of Chinese soft shell turtle (*Pelodiscus sinensis*) in Kakogawa City,  
Hyogo prefecture(2010)

By Akihiro Sugitani<sup>1</sup>, Shinichiro Sugitani<sup>1</sup>, and Mari Taniguchi

<sup>1</sup>Sumasui fieldobserver

---

2010年9月23日、兵庫県加古川市と播磨町との市町境の中の池に、淡水カメ捕獲用のカメ網を設置し、淡水カメを捕獲した。捕獲したカメはスッポンのみ4個体であった。スッポンは神戸市立須磨海浜水族園に持ち込み、背甲長、背甲幅等をノギスにより計測した。計測値を表1に示す。中の池は標高0m、海からの距離は1.5kmで加古川の河口部に近く、市街地に近い場所に位置する。このような場所にスッポンのみが捕獲されることは珍しいと思われるので、ここに記録として残す。また、本4個体は標本として、兵庫県立大学自然・環境科学研究所に寄贈された。

表1. 捕獲したスッポンの計測値

背甲長(mm)	背甲幅(mm)	腹甲長(mm)	尾長(mm)	腹甲先端～総排泄孔(mm)	体重(g)
152.4	128.8	122.6	48.9	41.6	608
163.1	139.0	127.2	62.1	52.9	659
202.6	164.5	151.0	92.1	70.8	1121
281.3	226.9	195.0	120.0	99.3	2787